

インタビュー

旭大星の 原点である 柔道を指導して



旭大星 高校生時代



旭大星 関

旭川は自分にとっての パワースポットです

Q村瀬先生の指導は？

すぐきつい練習でしたが、耐えることを教えてもらい、全国大会にも導いてくれたことを感謝しています。今でも足技を使うなど、柔道で学んだことが自分の相撲に影響していると思います。

Qご自分にとって旭川とは？

旭川はパワースポットみたいな場所で、帰ると、もっと頑張ろうと思うことができます。また、旭川には、少年団の先生や、母が亡くなってぐれそうになった自分を、高校でも柔道を続けるよう指導してくれた中学校の恩師など、今日の自分を育ててくれた人がいます。ファンが温かく迎えてくれるのもうれしい！

Q今後の抱負は？

番付を1枚でも上げて、行けるところまで行きたいです。まだまだ未熟者ですが、これからも頑張るので、応援よろしくをお願いします！

旭川大学高校柔道部監督 **村瀬秀行**さん

昭和50年生まれ。中学まで帯広市で過ごし、旭川大学高校に進学して柔道部に。大学卒業後に同校の教員となり柔道部を指導。教員となって3年目に旭大星関を指導

相撲界入りに驚く

旭川大学高校から角界入りした旭大星関は、今年の夏場所で新入幕を果たし、初の敢闘賞に輝きました。旭大星関が柔道を始めたのは、小学2年生。市内の少年団で柔道を始め、特待生として高校に入學し、柔道部に入部。「旭大星は素直で、一生懸命に柔道に取り組んでいました。黙々と稽古を続けて、全道大会の団体戦で活躍し、全国大会へ

の出場を果たしました」と村瀬さんは、当時の様子を話します。しかし、旭大星関から「将来は相撲の道に進む」と告げられた村瀬さんは驚きました。高校時代の旭大星関は、たくさん食べても、なかなか体重が増えなかつたからです。「相撲部屋に入門して、しばらくしてから様子を見に行つたとき、別人のように太つた旭大星を見て、相撲界のすごさの一端を見た思いがした」と話す村瀬さん。「けがに気

をつけて、さらなる高みを目指して長く相撲を続けてほしい」とエールを送ります。

少年団での熱心な指導

また、旭川の柔道環境について「少年団には熱心な指導者が多く、旭川の柔道のレベルを上げています。幼い頃に柔道を始めた旭大星も、先生や仲間を支えられて柔道を続けてきたことが、今日につながっていると思います」と村瀬さんは話します。

旭川大学高校の柔道部は、2016年リオデジャネイロオリンピック女子78kg超級で銅メダルを獲得した山部佳苗選手も輩出した強豪校。村瀬さんは、一流のアスリートや指導者など、生涯にわたって柔道に関わる人を育てたいと熱心に指導しています。

スポーツ界で活躍する多くの選手を輩出している旭川には、選手を育てる環境があり、優れた指導者がいます。旭川大学高校柔道部で旭大星関を指導した村瀬秀行さんに話を聞きました。



「私も、旭川大学高校柔道部で岩崎 満前監督から厳しい指導を受けました」と村瀬さん